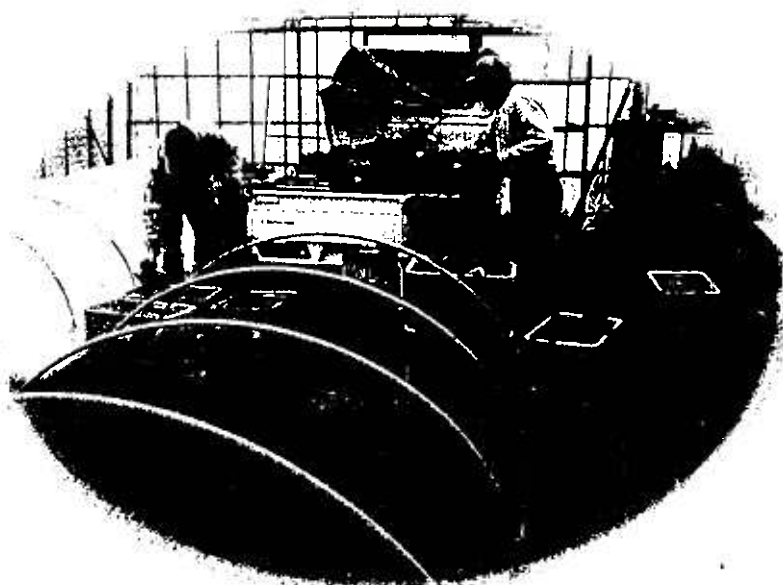


後継者と歩む複合経営安定プラン

大山町

後藤修一

後藤 稔



はじめに

私は以前ブドウと水稲の栽培をしていましたが、息子が3年前より農業をすることになりましたので、ブロッコリーの秋冬穫りを3年前より取り入れました。ブドウは45a栽培していましたが、その内20aは農協より借り受けて栽培していました。この施設は本来、農協が43年前に葉タバコの育苗のために作った施設ですが、空いた期間が長く施設の有効利用という事でブドウを栽培しました。また、この施設を利用して農協が町内の水稲苗の育苗も始めましたが、後に新しく専用の水稲育苗施設を作りました。また葉タバコ農家の減少と施設の老朽化で維持管理が難しくなり、施設の利用を止められる事になりましたので私だけが残ってブドウ栽培をしていましたが、施設の老朽化には勝てず今年の豪雪で屋根のFRPが破損し雨漏れがひどくなりました。補修も考えましたが修繕費があまりにも高額な事と、最近の果実の消費事情を考えますと修繕して栽培を続けることは困難に思い、断念し昨年度限りで施設を返還する事にしました。

今後、このブドウの減反分以上の所得を得るために、新しく初夏穫りブロッコリーを取り入れたり、秋冬穫ブロッコリーの規模拡大をしようと思います。また最近の異常気象による作柄の不安定要素などもあり、所得安定の為に白ネギ栽培も取り入れたいと思いますが、新規参入のため全く栽培経験がありませんので、普及所や農協の指導を受けて少しずつ栽培を増やしていきたいと思っています。

また、ブドウ栽培では地元市場の出荷に重点を置いていましたが、最近では果物の消費動向による消費量の減少、特に若者の果物離れが目立つといわれています。私はこの消費者の購買意欲を増す為に最近徐々に新品种への更新をはかっています。たとえば、種無しで皮ごと食べられるブドウとか、赤・青・黒色のブドウを詰め合わせてアスパルや、大山恵みの里での直売を中心にしようと考えています。そうすれば今より消費者の目も地元産のブドウに向くのではないかと思います。幸いに近隣との競合がないため有利販売が出来るのではないかと思いますので、今後地元直売に力を入れていきたいと思っています。

この国信地区は昔から水稲・葉タバコ・畜産の盛んな地区でしたが、最近は農家の高齢化や農業離れで耕作放棄地が目立つようになってきました。このような土地を借り受け、複合経営に力を入れていきたいと思っています。また地区内の大規模畜産農家より牛糞堆肥を譲り受け地力増進をはかりながら、減化学肥料に努め付加価値の高いブロッコリーの※「きらきらみどり」の出荷に努めたいと思います。また労働のピーク時にはネギは、ネギの共撰場に出したりシルバー人材センター等にも協力してもらい、少しでも地域に貢献できればと思います。

※「きらきらみどり」とはエコファーマーを取得し、硝酸態窒素の低いブロッコリーとしての出荷形態である 通常は段ボール5kgだが6kg入りである

1 現在の概況

① 労働力

氏名	年齢(才)	年間労働日数
本人		250
息子		250
妻		200

② 主な機械施設の装備

機械・装備	活 用	台数	能力・面積	導入年次
ガラス温室	ブドウ	2 棟	1000m ²	S 53
パイプハウス	ブドウ	連棟	1500m ²	H 1
育苗ハウス	ブロッコリー・ネギ・水 稲	1 棟	150m ²	H 5
車庫		1	137	S54 改造
作業場		1	25	不詳
トラクター	ブロッコリー・水田	1	22 p s	S60
動力噴霧器	ブドウ・ブロッコリー	1	4 p s	H5
管理機	ブロッコリー	1	4.2 p s	H21
軽トラック	農作業	1	660 c c	H23
軽ライトバン	農作業	1	660 c c	H22
ハウス加温機	ブドウ	1	400 坪用	H3
ハウス加温機	ブドウ	1	300 坪用	H8

2. 栽培面積の現況と目標

単位 (a)	H23 年	H24 年	H25 年	H26 年	H27 年	H28 年
温室ブドウ	30	10	10	10	10	10
ハウスブドウ	15	15	15	15	15	15
初夏穫りブロッコリー	0	50	70	90	90	100
秋冬穫りブロッコリー	120	150	180	200	200	200
春ネギ	0	0	10	10	15	15
夏ネギ	0	5	15	15	20	20
秋冬ネギ	0	10	10	20	30	30
水稲	43	30	60	90	120	120

3. 現在の耕地、圃場の現状と目標

単位 (a)	H23	H24	H25	H26	H27	H28
自作地	160	160	160	160	160	160
借地	50	70	130	210	240	240
合計	210	230	290	370	400	400



現在の秋冬(春)ブロッコリー

4. 栽培経営上の問題点と課題

- ① ブロッコリーの面積拡大や、ネギの新規作付に伴い現在のトラクターは老朽化し、故障も多く、馬力がないため作業効率が悪く、また肥料散布のアタッチメントが取り付けられないので面積の拡大が出来にくい状況です。
- ② 白ネギの新規参入に当たり技術不足、経験不足であることとネギ用の作業機械が揃っていません。
- ③ 現在の育苗ハウス内でブロッコリー、白ネギの育苗のほか箱詰め作業も行っている。また農機具の収納や肥料等資材の置き場所にも困っています。
- ④ 現在使用している防除機は古く、ホースを手動で巻き取ったり、噴射圧力も弱い為に作業効率が悪い。国信地区は風が強く農薬の飛散に問題があり、飛散を最小限に食いとめる為に農薬量の減少に努め環境に配慮したいです。
- ⑤ ブロッコリー、ネギの規模を拡大すると連作障害の可能性も多く、土作りも不十分であると認識しています。

5 .問題点に対する対応策

- ① ブロッコリー、白ネギの複合経営するには作業効率の良いトラクターを導入しブロードカスタやネギの掘り取り機のアタッチメントを取り付けて労力の省力化をは

かりたいと考えています。また馬力が強くなるので作業性も向上し、深耕にもつながります。

- ② ネギの技術経験不足は昨年あたりから、普及所や農協の現地講習会にも出席して研修も受けていますが、今後も積極的に参加して技術の習得に努めていきます。
- ③ ブロッコリー、ネギの育苗期間が集中しハウスが手狭で農機具庫も古くて狭いので、新しく育苗専用のハウスを建て、現在使っているハウスを作業場兼肥料・資材や機械の収納庫に使いたいと思います。



現在の手狭な農機具庫

- ④ 環境対策として農薬散布については、出来るだけ朝夕の風のないときに散布に心掛けたり、ドリフト低減ノズルを使用し、農薬の飛散防止に努めます。また省力化を図るため1人で農薬散布ができるラジコン動噴(通常は2人で対応)を導入したいと考えています。
- ⑤ ブロッコリー、ネギの連作障害回避としては、土作りに積極的に取り組み近隣の畜産農家より牛糞堆肥を譲り受け散布したり、水稻やソルゴーの作付の輪作体制で地域内の遊休農地を借り受けて栽培していきます。ネギの連作障害対策として水稻を増反し、ブロッコリーも含め3品目の輪作体系を組んでいきたいと思っています。

6 地域への波及効果

- ① 遊休農地を積極的に利用する事により、耕作放棄地の減少に努め地域の農地保全に貢献出来ます。
- ② 安全安心な農産物の生産に努め、消費者へ提供することにより、我々生産者は生きがいと使命感を持って行う事が出来ます。
- ③ 労力集中時にシルバーセンター等を利用しシルバー世代の労働力確保に貢献出来ます。
- ④ 複合型農業経営の安定化が確立出来、他農家の手本になれば地域農業への発展に貢献出来ます。

7 具体的な取り組み

	H 24 年	H 25 年	H 26 年	規 格	事業費 (千 円)	事業主体
トラクター	◎			27 p s	3, 0 2 4	県・町・本人
ブロードカスタ	◎				2 4 7	県・町・本人
ネギ管理機	◎				3 1 4	県・町・本人
ネギ結束機	◎			電動式	2 5 6	県・町・本人
育苗ハウス	◎			5.4m×35m	1, 0 3 8	県・町・本人
ラジコン動噴		◎			6 8 9	県・町・本人
ネギ掘り取り機		◎		アタッチ方式	2 5 5	県・町・本人
簿記記帳による経営分析	○	○	○			J A・普及所・本人
ブロッコリー・白ネギの研修	○	○	○			J A・普及所・本人
ブドウの直売所での販売の推進	○	○	○			本人

◎は補助予定

(参考) 複合経営における作業体系

品 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
温室ブドウ	→ ★			☆ ←				→ ☆	■ ← → ■			
ハウスブドウ	→ ★			☆ ←			→ ☆		■ ← → ■			
初夏ブロッコリ	△ ← → △		○ ← → ○		■ ← → ■							
秋冬ブロッコリ				→ ■				△ ← → △		■ ← → ■		
春ネギ			■ ← → ■		△ ← → △		○ ← → ○					
夏ネギ		△ ← → △	□ ← → □				■ ← → ■					
秋冬ネギ	■ ← → ■			△ ← → △						■ ← → ■		
水稻					△ ← → ○				■ ← → ■			

凡例: △:播種・育苗

○:定植

■:収穫

☆:剪定、誘引、ジベ処理

※11～12月は、ブロッコリーとネギの収穫がダブるためネギ選果場を主体とする。